

水野谷武志ゼミ I・II

参加学生数 28 名



水野谷 武志

地域経済学科
教授

噴火湾パノラマパークにて

過疎地域のまちづくり

研修地：厚沢部町・木古内町

● 研修目的

過疎地域におけるまちづくりの現状と課題を具体的な地域に学ぶ。今回は道南の2つの地域を設定した。1つは様々な交流・移住政策を進めている厚沢部町と、北海道新幹線開業によるまちづくりを進める木古内町である。

研修地・日程

- 8月22日 厚沢部町役場（総務政策課）、素敵な過疎づくり株式会社、旧清和小学校で「ちょっと暮らし」滞在者と石釜ビザパーティー、道の駅あっさぶ、ゆいまー厚沢部（介護付有料老人ホーム）、「ちょっと暮らし」住宅見学、地域おこし協力隊員の農場を見学
- 8月23日 サラキ岬で威臨丸の話の聞く（木古内町観光協会）、木古内町役場（まちづくり新幹線課・産業経済課）、新幹線木古内駅ホーム入場見学、道の駅みそぎの郷きこない（木古内公益振興社・観光協会）、木古内みそぎまち歩きに参加（観光協会）、木古内町郷土資料館「いかりん館」（木古内町教育委員会）、新幹線ビュースポット
- 8月24日 噴火湾パノラマパーク（八雲町）、帰礼

写真キャプション ① 道の駅あっさぶ。② 「ちょっと暮らし」滞在者と石釜ビザパーティー。③ 地域おこし協力隊員の農場で。④ 新幹線木古内駅を見学。⑤ 道の駅みそぎの郷きこない。⑥ 木古内みそぎまち歩きに参加。



1



2



3

● 総括

厚沢部町では、厚沢部町の移住政策、「素敵な過疎づくり株式会社」の取り組み、持続可能な高齢者コミュニティをめざす「ゆいま〜厚沢部」の取り組み、地域おこし協力隊の活動について関係者に話を聞き、厚沢部町の交流・移住政策によるまちづくりの現状を学ぶことができた。厚沢部町の先進的な取り組みには熱い思いと行動力のある地域おこし協力隊の存在が大きかったことがわかった。

木古内町では、木古内町まちづくり新幹線課の新幹線開業前後の取り組み、道南西部9町の広域観光拠点としての道の駅の展開について関係者の話を聞き、また木古内町の体験観光メニューを実際に体感することによって、木古内町の新幹線開業によるまちづくりの現状を学ぶことができた。新幹線開業までに北海道と連携した木古内町及び周辺9町による様々な努力と企画が投入されてきたことを知るとともに、その効果が北海道内外から訪れる道の駅の盛況ぶりに表れていると感じた。

両町共通の今後の課題は、町が主導してきた先進的な取り組みに対して町民の参画を一層取り付け、町全体としての地域づくりに発展させることではないだろうか。

学生研修記

水谷 有沙

地域経済学科 2年
深川西高校出身

池浦 歩輝

地域経済学科 3年
江差高校出身

過疎に対する厚沢部町の取り組み

水野谷ゼミは2グループに分かれて研修をしました。私達のグループは、田園回帰と過疎の解決について調査するため、厚沢部町に行きました。厚沢部町では、「素敵な過疎のまちづくり条例」を出しており、過疎を受け入れつつ、活気のある町を目指して活動していました。地域おこし協力隊であった人達は、素敵な過疎づくり株式会社で働いて、条例をすすめる中心的役割をしていたり、農家で働いていたり、0円で免許を取得する合宿を企画したりと、厚沢部の魅力を知ってもらうために、様々な方面から町を盛り上げているように感じました。実際に、「ちょっと暮らし」をしている方々とお話をしましたが、魅力が伝わっていると感じました。現在も、過疎化は進行していますが、厚沢部町のように、過疎を受け入れつつ、魅力をしっかり持つことで、少なくとも町の維持へと繋げることは可能であると学ぶことができました。

地元の現状とこれからの取り組み

水野谷ゼミは道南の厚沢部町、木古内町を過疎というテーマの下で調査しました。私たちのグループは北海道新幹線が開通し、北海道に入って最初に停車する地域である木古内町を訪問しました。想像以上に過疎は進んでいたものの木古内町の人々は諦めてはいなく、新幹線開業だけに頼って地域活性化を図るのではなく自分たちの力で地域を変えようとする姿勢について私たちの目で確かめることができました。木古内町だけでは限界があるということで近隣9町と連携し、周遊する形の観光スタイルを作り上げていました。今回の研修では自分の地元付近である道南に行くことになりましたが、新しい魅力が沢山見つかりました。皆さんにも自分の地元や地域にもっと目を向けて見てほしいと感じることができた研修でした。



4



5



6